

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500053		
法人名	特定非営利活動法人 いこい		
事業所名	グループホーム いこい		
所在地	岐阜県中津川市瀬戸536-2		
自己評価作成日	平成31年1月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2191500053-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2191500053-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成31年2月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、認知症高齢者の家族が集ってつくりあげたNPO法人が運営しています。ご利用者様に対しては、不安感を少しでも和らげ、穏やかに安心して生活を送っていただけるよう支援しています。日常生活の中に楽しみを持っていただけるよう、季節行事や誕生日会、個別外出等を企画し工夫しています。また、ボランティアさんに来ていただいたり、近隣の方から農作物の差し入れをいただいたり、地域の方に理解されながら繋がりを大切にして暮らしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が家族・職員・地域の人たちと共に、住み慣れた地域で笑顔で暮らせるよう、様々な工夫をしながら運営している。自治会に加入し、地域とのつながりを大切にしながら、利用者と職員と共に、地域活動に参加している。また、事業所は、認知症への理解を深めてもらうために、地域住民に向けての活動を行いながら、介護相談にも乗っている。管理者は、職員の日々の負担を減らして仕事の効率を図れるよう、大型の洗濯乾燥機や調理器具を導入している。それによって生まれたゆとりの時間を利用者との対応に充て、サービスの質の向上に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは笑顔を育てます」という理念をケアの基本原則として全職員が共有できるよう努力している。理念は玄関や事務所に掲示し、日々目にしながら実践している。職員会議や申し送り・研修の場等で課題を出し、検討して実践している。	運営理念を全職員で共有し、利用者が笑顔で安心して暮らせるよう実践している。職員は日々のケアの中で、利用者は何を楽しんでいるのか、心から笑顔になっているのかを常に意識しながら、利用者が出来る事を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員として定例会(常会)や自治会活動(掃除)、祭礼等に積極的に参加している。また地域の方がボランティアに来て下さったり、農作物の差し入れ等もして頂いている。	代表者は、自治会の行事や活動に積極的に参加し、地域からの信頼も得ている。また、利用者も祭りや餅投げなどへの参加で、地域住民とコミュニケーションを図れるよう支援している。近隣から、野菜や果物の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について学び実践していることを、地域の方との会話の中で話したり、施設の見学をして頂いている。今後も相談を常時受け付け、地域に貢献できるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の様子やサービスの実際(写真等も使用)について報告や話し合いを行っている。毎回、推進委員の皆さんには多数参加して頂き、ご意見を頂いている。余暇活動の充実や感染症の予防策等に活かしている。	運営推進会議には、行政や区長、民生委員などが参加している。出来る限り専門用語を避け、雰囲気作りにも努めながら、会議を進行できるよう工夫している。議題だけでなく、雑談の中で出てくる意見も大切に、改善に繋げている。	有意義な意見交換が行われているが、参加者の意見の詳細が記録されていない。議事録の記録方法を充実させ、振り返りと共に、今後の事業所運営に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市の主催するケアマネ部会・グループホーム部会・研修会等で情報や意見交換、助言を頂いて協力関係を築けるよう努めている。また、介護相談員を受け入れている。	市の担当者が運営推進会議に参加しており、意見交換をしたり、気軽に相談したりできる関係である。市主催の会議や研修会等に、積極的に参加している。地域包括支援センターとも連携し、良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアの鍵、ベッド柵、車椅子なども含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご利用者にはできるだけ自由に過ごして頂くよう、物理的な身体拘束のみならず、心理的な拘束についても注意を怠らない様指導している。	身体拘束に関して、運営推進会議や職員会議で話し合いながら、第三者の意見を踏まえ、拘束をしないケアを実践している。ベッド柵は介助バーに交換し、玄関の施錠はせず、見守りながら利用者に寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束やケア方法についての内部研修を行い、虐待に繋がらないよう意識付けている。不適切なケアについては、お互いに声を掛けられるよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、特に成年後見制度について学ぶ機会を持って、日常的に活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約または規則等改定の際には、ご利用者・ご家族に文書(便り等)や口頭でお知らせするとともに十分な説明を行ってご理解・納得を頂けるよう努めている。また疑問点等の問い合わせは常時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などは、介護相談員とも協同して把握に努めると共に、日常の言葉や表情などからも思いを汲み取れるよう心掛けている。ご家族からは運営推進会議や面会、電話連絡の際に何うように努め、運営に反映させている。	利用者の意見や要望を、日常の関わりの中で聞き取ったり、介護相談員の報告からも把握している。家族からは、面会時や電話等で要望を聞き、改善が必要なことは全職員で話し合い、解決に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い、そこで職員の意見を聴く場を作っている。その他にも専門職者会議を持ち、多角的な視点で考え実践している。また普段の申し送りの中からも職員の意見を聴き反映している。	管理者は、業務の見直しや改善点について、職員と意見交換をしている。職員の意見は、会議や日常業務の中でも聴き、改善を要することは速やかに対応し、できないことは理由を明確にして回答している。職員の提案で、図書館から、定期的に絵本や紙芝居を届けてもらうことが実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態や実績、勤務状況などを管理者からも代表者に報告している。勤務・職場環境に関する相談も代表者・管理者が受け付けている。給与の賃金表を作成し、人事考課査定を行い、意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、認知症やケア方法等についての理解を深めている。また介護福祉士実務者研修や介護職員初任者研修を受講し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修会に参加し、交流作りに努めている。会議や連絡ボード等で情報を提供し、出来る限り参加を促し、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安・要望・思いなどを聴く機会を作ろうと、職員一人ひとりが意識してご利用者に接している。その際にご利用者に安心していただけるよう笑顔で接し、大声を出すことのないように指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームとご家族、ご本人とのしっかりとした関係を構築する為、話しやすい環境をつくり、不安・困っていることなどを伺って信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、面接時にご本人やご家族から伺った情報・診断書・利用予約票などを基にアセスメントを十分に行い、ご不安の点を少しでも少なくできるような介護サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は野菜の皮むきや縫い物、広告折りなど得意なことをそれぞれに持ってみえるため、一緒に行かないながら教えていただいている。また食器拭き等も手伝って頂き一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思い、ご家族の思いをそれぞれに伝えて橋渡しをすることを大切にしている。ご家族には相談・報告をしながら、ともにご本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子どもや孫、親戚、知人等が面会にみえている。美容院へ行ったり、ドライブで馴染みの場所を回ったりしている。正月には帰宅する利用者もいる。 家族との時間を大切に頂こうと、お茶やお菓子を出しゆっくり過ごしてもらっている。	職員は笑顔で面会者を出迎え、利用者とゆっくり過ごせるよう雰囲気づくりに努め、関係継続を支援している。また、利用者の馴染みの場所へはドライブを兼ねて出かけたり、家族の協力を得て、馴染みの美容室へ行くなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の構成が変化するたびに、新たな関係の構築に努めている。ご利用者が話しやすい環境や雰囲気を作れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から電話相談などがあれば対応している。また移動先の施設に情報を提供し連携が図れるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアを通じて一人ひとりの思いや意向の把握をしようと努めている。把握が困難な場合、その人本位に立って職員会議や申し送りの場で検討している。誕生月には本人の希望を聴き、個別外出している。	利用者毎に担当職員を決め、その担当者が中心となり、日常生活の中から思いや意向を把握している。意思表示が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから思いを汲み取っている。日々の気づきを記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント記録、日常会話の内容・ご家族からの情報などによって把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや日誌、個別記録から、一日の過ごし方、心身状態、有する力などの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と話す機会を作り、要望や不安に感じていること等を聞いている。ご家族にはケアプランの内容を説明し、ご意見・要望を伺っている。また職員会議で一か月間の状態変化や気づきをまとめ、プラン作成の参考にしていく。	介護計画は、利用者や家族の要望を把握し、状態変化や日々の気づきを踏まえ、会議で話し合いながら作成している。利用者が、日常生活の中で役割を持って暮らせるような計画を作成し、職員は日々支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにおいては日誌・申し送りなどで職員間で共有できるよう努めている。またご本人の様子や状態等は個別記録に記入し、毎月振り返ることでご本人に合ったケアができるよう検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況・ニーズに対応して、できる限り臨機応変にサービスを提供できるよう努めていきたい。		

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営について近所の方のご協力を頂いている。また、地域のボランティアさんによる音楽・体操・ゲーム等のアクティビティも行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人・ご家族の意向を伺い決定している。定期通院についてはご家族にお願いしたり、職員が同行したり、月1回の往診をお願いしている。訪看とも連携し週1回の訪問と24時間の連絡体制を整えている。	かかりつけ医や専門医との連携を密に行い、家族とも情報を共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。利用者が入院した際は、その都度、状況確認を行って情報を共有し、退院してからも安心して暮らせるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活の中での気づきや情報を協力医療機関の看護師や訪看に伝えている。必要があれば受診や看護などを実施するよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、職員が付き添って情報提供し、退院時は病院の看護師からの情報を伺ってサマリーなどの情報を受けている。この際、できる限りご家族とともに情報を聞くようにしている。病院相談員とも連絡を取り関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重症化や終末期に向けた方針について話をしている。ターミナルケアについて等、具体的なことは指針に則って、その場になった時に改めて協力医、訪看を含めて十分な話し合いと確認をしたいと考えている。	契約時に、重度化や終末期の対応方針について、家族に説明し、事業所としてできること、できないことを伝えている。利用者の状況変化があった場合、段階的に家族の意向を確認し、協力医と訪問看護による医療連携体制を整えながら、適切な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、消防署の協力を得て、救急法・AED使用法・異物除去法などを学ぶ機会を作っていくたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難を消防署の指導により実施。引き続き地震・水害対策も含めて定期的な訓練により全職員が避難法を身につけていくことを目指し、地域との協力体制も築いていきたい。備蓄や自家発電装置、貯水槽は設置している。	年2回、消防署の指導を受けながら訓練を実施している。防災機器業者の助言や、地域住民から過去の災害や地域の要支援者の情報を得、対策に活かしている。備蓄を完備し、貯水槽や自家発電機を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに注意しながら排泄介助や入浴介助などを行うよう心掛けている。支援についての指針を作成し、それに沿って取り組んでいきたいと考えている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々、変化する思いにも寄り添いながら支援している。職員は、対応方法の基本や利用者とのかわり方を文書化して、全職員で共有し、初心を忘れることのないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動で行ないたいこと等を尋ね、希望に沿った過ごし方ができるよう心掛けている。誕生者外出では、ご本人の食べたい物を確認し、お店を選び個別で外出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしについて、普段の関わりの中からニーズを抽出し、その人のペースによる暮らしを実現できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や着替えなど自分で可能な方にはしていただいている。できない方には声掛けや介助し、TPOに合わせた服が着られるように支援している。また毎朝鏡をみて、髪を整えたりして意識付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の一般家庭で普段提供されているメニューを提供できるようにしている。また旬の食材や本人に合った形態で食事を提供している。利用者と職員と一緒に準備したり、食事したり、片付けをしたりしている。五平餅やおはぎ等も楽しみながら作られている。	調理担当者が、栄養バランスを考えながら、野菜中心の食事を手作りしている。利用者も、準備や片付けなど、出来る人が出来ることに関わっている。家庭の食事に近い形での提供を心がけ、陶器の食器を使用している。利用者と職員が、一緒に同じものを食べ、和やかな雰囲気ですべての食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別記録に記入している。また、栄養バランスにも留意しつつ地産地消を念頭に、楽しい食事を提供できるよう努めている。水分は午前午後にお茶の時間を作ったり、入浴後に飲んだり、適時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや促しをすると共に、難しい方には介助し、個々に応じた歯磨き支援をしている。週2回歯ブラシ・コップ、義歯を消毒している。訪問歯科とも協力し口腔内のケアに努めている。		

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に一人ずつ記録し、体調や排泄パターンを把握し、声かけや介助をすることで排泄の自立に向けた支援ができるよう努めている。また夜間はポータブルトイレを使用して頂くなど自立できるよう環境面も整備している。	個々の排泄パターンに合わせて、声掛けとトイレ誘導をしている。排泄の失敗が利用者の心の負担とならないよう、排泄後の身だしなみも確認している。夜間は安眠に配慮し、ポータブルトイレを使用したり、状態に合わせたパッドや紙パンツを選択して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応には、排泄表に記録し状況を把握すると共に、原因を理解するよう努め、食事や運動など、個々に応じた対応をしている。必要に応じて下剤の服用など医療機関とも連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日まで、週3回ずつ入浴している。拒否される方は、時間をおいたり、翌日に変更して対応している。入浴剤を入れたり、ゆずを入れたり、リラックスして頂けるよう工夫している。	週3回の入浴日を決めているが、体調や本人の気分など、状況に合わせて変更している。安全面を重視し、職員2名で対応しているが、必要以上に手を出さず、見守りながら、利用者のペースでゆっくりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は定めていない。夕食後はリビングや居室で過ごして頂き、就寝して頂いている。日中の休息も体調に応じたり、その時々状況で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用については、薬局の説明書を個別記録とともにファイルにして、いつでも確認できるようにしている。服薬管理・介助は薬剤師とも連携を図り、確実な服薬と、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等を一緒に行うことで、日々の役割の中で張り合いを感じられるよう支援している。また嗜好や趣味、特技などをつかみ、取り入れることで、喜びの時間や気分転換などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩、ドライブ等、戸外に出る機会を増やした。年間行事として祭りや花見、花火大会、紅葉狩り等、季節を感じられるような外出を企画している。誕生日には本人の要望を聴き個別で外出したり、家族にも協力を得て、美容院や墓参りにも出掛けている。	散歩時に近所の人と会うことも多く、会話を楽しんでいる。ドライブや外食に出かけたり、年間行事では、季節の花見や紅葉狩り、初詣等に出かけている。利用者の誕生日には、個別外出を支援している。本人の希望する場所へは、家族の協力を得て出かけている。	



岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお金の管理をしている。ご希望によって少額の現金をご自分で管理し、商店で買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりご利用者からご家族に電話される際には支援し、安心につなげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングなどに花を活けたり、壁に写真や作品を飾ることで、季節感や楽しみのある雰囲気を作り出すよう努めている。エアコンや床暖房、加湿器により住環境を整えたり、掃除やハンドペーパーを使うなど衛生的な環境になるよう心掛けている。	共用の間には、季節の花や雛人形など、利用者が季節を感じられるよう工夫し、家庭的な安らぎのある畳スペースもある。テレビを囲むようにソファを置き、職員も手が空いた時には利用者と一緒に寛ぎ、会話を楽しんでいる。浴室にもトイレがあり、入浴時にも安心して利用できる造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファや椅子を置き、お気に入りの場所に座られている。話がしたいと思った方のところへ移動され会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた鏡台やタンス、ご家族の写真、ご家族からのプレゼント、テレビ、位牌、ぬいぐるみ等を置いてみえる。施設側は特に持ち込まれるものについては制限していない。	馴染みの家具やテレビを置き、家族写真やぬいぐるみなどを飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。転倒予防の為、ベッド周辺には物を置かず、整理整頓されている。鉢植えを大切に育てている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自室には名札を付けたり、トイレの戸の色を変え区別できるようにしたり、札を付けたりして迷わず行けるよう環境面に配慮している。廊下やトイレ、風呂場には手すりを付け安全に自立した生活を送れるよう整備している。		